

ボックスオンIBD-CA調製のポイント

本製品は獣医師の指示・処方箋に従って正しくお使いください。

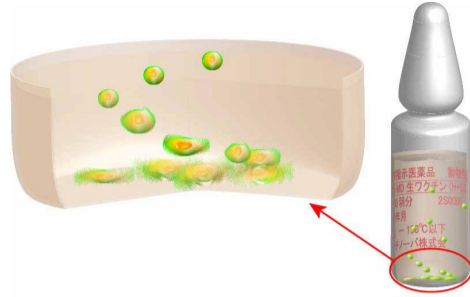
※ワクチン融解の際にワクチン細胞に損傷を与えないよう、以下のことに注意して下さい。

×



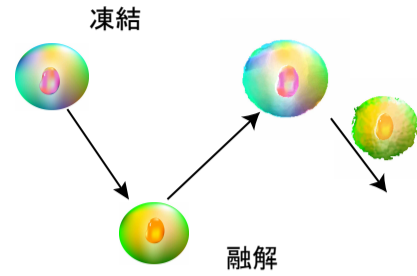
× アンプルを激しく振らさないでください。

×

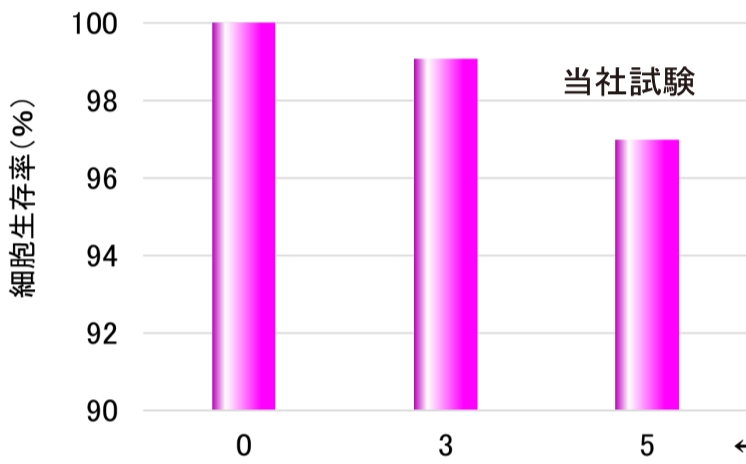


× 融解後は、時間と共に細胞破壊が進みますので、直ちに調製してください。

×



× ワクチンは再凍結しないでください。



←融解後、時間をかけずに溶解用液に注入してください。

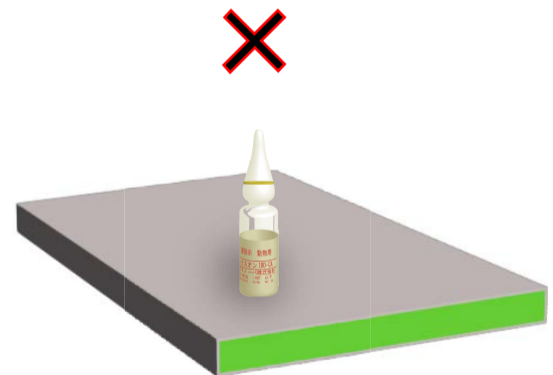
図.1 微温湯で融解したボックスオンIBD-CA を、冷水中に静置したときの細胞生存率：融解直後を100として算出。



1本ずつ融解してください。
融解は60秒以内につけてください。



× ワクチン融解後、アンプルを室内の温度で放置しないでください。



融解後は直ちに溶解用液に注入してください。
目安：融解開始から溶解用液注入まで=90秒

※室内温度のアンプル：細胞にとって苛酷です。時間と共に細胞破壊が進みます^{1,2}。

※IBDワクチンウイルス：細胞が破壊されると、ウイルスが細胞外に放出されます。

細胞が破壊されなくても、時間がたつとIBDウイルスは増殖し、細胞外に放出される可能性もあります³。

細胞から放出されたIBDワクチンウイルスは、「感染細胞型のワクチン」として機能しません。

ご質問、ご相談などございましたら弊社までお問い合わせください。

参考文献

1. Avian Dis. 1979 Vol. 24 P848-852 D. A. Halvorsen et al.

2. Avian Dis. 2007 Vol. 51 P989-973 H.J. Geerling et al.

3. Blomed Res. Int. 2014 May 14 Article ID 494835 Kaliyaperumal Rekha et al.